

## 平成23年度第1回大分県行財政改革推進委員会 主な意見

### 情報システムの活用状況について（行政監査結果を受けて）

- データのバックアップについて、危機に際した時にきちんと情報システムが機能するよう、ITデータ及びサーバーも含めた統一的なバックアップの基準を設けてはどうか。
- 常識的に捉えると、情報システムの開発・導入に非常に大きなお金がかかるというのは分かるが、その後の運用・保守に開発・導入経費の3割、4割近いお金がかかることは理解できない。
- 情報システムの全体設計を行った上で、本当に必要なシステムか将来的にも必要性が継続するかなども検討すべき。
- 利用実績の目標設定が、中途半端な気がする。いちばん大事なのは、利用者の安心・安全や県民が有効に活用できるシステムかどうかであり、目標設定をもう一度考え直す必要があるのではないか。
- 欲しいデータがホームページに載っていることすら知らないということが良くあり、PRの不足があるのではないか。また、ホームページに載っていても、なかなかそこに行き着けないという問題点があるので、工夫をよくしてほしい。
- システムの概要を紹介する場合は、導入金額に加えて、目的達成度を数値化したものや県民満足度をなどを掲載すると、県民にとって分かりやすい。
- 災害の多い時代になったが、東日本大震災では、情報を電子化していたために市町村や県の窓口が対応できなかったということがあった。情報化が一般的になってきたが、それに伴い、マンパワーを重視すべきところで重視するのを忘れるなどの問題が、これから出てくるのではないか。